



第1学期を終えるにあたって

子どもたちが育ててきた朝顔やゴーヤのつるが背丈ほどに伸び、ミニトマトの実が次々と赤く色づいています。本日で第1学期を無事に終了いたしました。緊急事態宣言、まん延防止重点措置が実施される中でも、保護者、地域、関係諸団体の皆様に支えていただき、子どもたちが落ち着いた気持ちで、学校生活を送ることができましたことに深く感謝申し上げます。

いよいよ子どもたちにとって楽しみな夏休みが始まります。7月19日(月)から8月25日(水)までの38日間の夏休みを、今までの学習や生活を見つめなおし、第2学期に備え、志を新たに準備する機会としてほしいと思います。子どもたちはこれまでの学習やさまざまな取組を通して力を付けてきました。「粘り強く漢字や計算を練習した。」「手を挙げて発表できた。」「みんなと仲よく過ごせた。」「手にマメができるほど鉄棒に取り組んだ。」「困っている人がいたら助けてあげたい。」など、一人一人が自信を深めています。本日、持ち帰った通知表を参考にさせていただき、お子様をよりよく伸ばすための話題と励ましの材料にさせていただければと思います。

「ハーバード白熱教室」で知られるマイケル・サンデル教授がNHKのインタビューに応じた番組を先日視聴しました。パンデミックが広がる中で人々の中に不平等感や不公正感が広がり、差別や偏見の問題が浮き上がってきたことを心配する一方で、今まで見過ごしがちだった様々な仕事について、どれほど私たちが強く依存していたのか気付くことができるようになったことを評価されていました。私たちの衣食住を支えてくださっている様々な仕事はどれも不可欠なものであることや、すべての労働には尊厳があり、感謝する気持ちをもつことなどに響くお話でした。

本日の終業式では、お互いに「みんな一緒にがんばっているんだ。」と信じ合える学級、仲間の立場や思いに豊かに気付くことができる学級、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる学級をつくっていこうと話しました。お手伝いをする、規則正しい生活に努める、苦手な学習を克服する、さまざまな種類の本を読むなど、自分にできることや自分で決めたことをこつこつと粘り強く継続して取り組むことの大切さや、「おはよう」「いただきます」などの挨拶についても触れましたので、お家でも話題にさせていただけるとありがたいです。

子どもたちが何よりも楽しみにしている夏休みですが、この時期、子どもの命や安全に関わる事故や事件が毎日のように報道されます。ご家庭におかれましては、学校からの資料もご活用いただき、夏休みの安全な過ごし方や命の大切さについて今一度お子様とお話しいただく時間をとっていただきますようお願いいたします。

明日から子どもたちの生活の場は、家庭や地域が中心となります。安全、安心で、楽しく充実した夏休みとなりますよう、引き続きご協力、ご支援をお願い申しあげ、第1学期終了のご挨拶とさせていただきます。

校長 藤原 佳弘
教職員 一同